

大分県

森林環境税の取組み実績

平成29年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

森林環境税の概要	1
森林環境税の積立・執行状況	2
平成29年度森林環境税活用事業一覧表	3

I 県民生活と自然環境を守る森林づくり

1. 荒廃人工林緊急整備事業	4
2. 急傾斜地危険地区緊急伐採事業	7
3. 荒廃竹林整備・利活用推進事業	8
4. 県営都市公園里山利活用推進事業	11
5. 魅力ある景観づくり推進事業(景観伐採事業)	12
6. 森林シカ被害防止対策事業	13
7. 生物多様性保全推進事業(希少野生動植物の保全対策)	14
8. 自然環境保全管理費(祖母傾国定公園学術調査)	16
9. 森と海をつなぐ環境保全推進事業(流木等被害対策緊急防除事業)	17
10. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	18
11. 豊かな水環境保全推進事業	19

II 森林資源と循環利用による地域活性化

1. 再造林促進事業	20
2. 県産竹材利用促進事業	22
3. 竹産業振興対策事業	24
4. CLT利活用等促進事業	
①大分県木造マイスター育成事業	25
②土木用丸太活用促進事業	26
5. おおいた型次世代住宅創造事業(地域材パネル工法普及研修事業)	27
6. 県立スポーツ施設建設事業	28
7. 林業就業準備支援事業	29
H28年度繰越事業 障がい福祉施設整備事業	30

III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

1. 森林づくりボランティア活動促進事業 (森林づくり提案事業一覧表)	31
2. 森林環境教育・木育促進事業	
① 森の先生派遣事業	35
② 名樹とのふれあい事業	36
③ 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業	37
④ 企業参画の木育活動推進事業	38
3. 森林環境学習促進事業	39
4. 未来の環境を守る人づくり事業	40
5. 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業 (繰越事業のため平成30年度に報告)	
6. 国立公園施設整備事業 (繰越事業のため平成30年度に報告)	
7. みんなで支える森林づくり推進事業	42
8. 県民の森管理事業費	45
9. おおいたの森林づくり広報推進事業	46
10. おおいたうつくし作戦推進推進事業	47

森林環境税の概要

1 森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 森林環境税の概要

- 期間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
第Ⅲ期：平成28年度～平成32年度
- 税額 個人…年額 500円
法人…年額 1,000円～40,000円（法人県民税（均等割額）の5%）
- 税収 単年度 約3億2千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 森林環境税の用途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

<第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、多くの県民が参加する仕組みづくり

- Ⅰ 県民意識の醸成
- Ⅱ 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- Ⅲ 持続的経営が可能な森林づくり
- Ⅳ 遊び、学ぶ森林づくり

<第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全につながる森林づくり

- Ⅰ 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- Ⅱ 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- Ⅲ 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

<第Ⅲ期 平成28年度～平成32年度>

テーマ：自然豊かな大分の魅力を育む持続可能な森林づくり

- Ⅰ 県民生活と自然環境を守る森林づくり
- Ⅱ 森林資源の循環利用による地域活性化
- Ⅲ 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18~H22)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						割合(%)
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	14
II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	51
III 持続的経営が可能な森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	29
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23~H27)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績					合計	割合(%)
	H23	H24	H25	H26	H27		
I 災害に強く生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III 県民参加の輪を広げ次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

<第Ⅲ期> (H28~H32)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H28	H29	H30	H31	H32	合計
基金積立額	315,240	317,844	—	—	—	633,084

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績					合計	割合(%)
	H28	H29	H30	H31	H32		
I 県民生活と自然環境を守る森林づくり	147,051	130,814	—	—	—	277,865	48.7
II 森林資源の循環利用による地域活性化	87,943	87,134	—	—	—	175,077	30.7
III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組	51,105	66,623	—	—	—	117,728	20.6
合計	286,099	284,571	0	0	0	570,670	100

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

平成29年度 森林環境税活用事業一覧表

(単位:千円)

	施策区分	事業名	事業費	担当課室
I 県民生活と自然環境を守る森林づくり	1 荒廃森林の整備	1 荒廃人工林緊急整備事業	15,870	森林整備室
		①流木被害森林緊急整備事業(H25～)	14,525	
		②間伐放置林等緊急整備事業(H18～)	—	
		③再造林放棄地緊急整備事業(H18～)	1,345	
	2	急傾斜地崩壊危険区域緊急伐採事業(H27～)	9,000	砂防課
	2 里山林の保全と利活用	3 荒廃竹林整備・利活用推進事業(H22～)	14,709	森との共生推進室、林産振興室
		4 県営都市公園里山利活用推進事業(H26～)	1,867	公園・生活排水課
		5 魅力ある景観づくり推進事業(H25～)	8,100	都市・まちづくり推進課
	3 シカ被害対策の推進	6 森林シカ被害防止対策事業(H20～)	64,644	森との共生推進室
		7 生物多様性保全推進活動事業(H29～)	900	自然保護推進室
		8 自然環境保全管理費(祖母傾国定公園学術調査)(H29～H31)	3,997	
4 森・川・海をつなぐ環境の整備	9 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18～)	5,437	漁業管理課	
	10 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18～)	1,486	循環社会推進課	
	11 豊かな水環境保全推進事業(H26～)	4,804	うつくし作戦推進課	
			130,814	計
II 地域森林活性化の循環利用による	1 健全な人工林資源の拡大	1 再造林促進事業(H22～)	70,200	森林整備室
	2 森林資源の需要拡大	2 県産竹材利用促進事業(H21～)	370	工業振興課
		3 竹産業等振興対策事業(H24～)	267	林産振興室
		4 CLT等利活用等促進事業(H26～)	1,630	林産振興室
		5 おおいた型次世代住宅創造事業(H28～H29)	1,462	林産振興室
		6 県立スポーツ施設建設事業(H29～H30)	11,393	県立スポーツ施設建設推進室
	3 林業の担い手確保・育成	7 林業就業準備支援事業(H28～)	1,812	林務管理課
			87,134	計
	H28年度繰越事業	障がい者福祉施設整備事業	8,870	障害福祉課
III 森林にふくれ親をし支み、える取組	1 森林ボランティア活動の促進	1 森林づくりボランティア活動促進事業	18,624	森との共生推進室
		①森林づくりボランティア支援センター事業(H18～)	3,478	
		②企業参画の森林づくり推進事業(H19～)	282	
		③森林づくり提案事業(H18～)	14,243	
		④山村多面的機能発揮対策事業(H29～)	621	
	2 森林環境教育・木育の推進	2 森林環境教育・木育促進事業	7,528	森との共生推進室
		①森の先生派遣事業(H19～)	4,828	
		②名樹とのふれあい事業(H25～)	1,625	
		③次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業(H24～)	700	
		④企業参画の木育推進事業(H26～)	375	
		3 森林環境学習促進事業(H18～)	6,053	
	3 森林整備への理解と参加を広げる活動	4 未来の環境を守る人づくり事業(H28～)	4,204	うつくし作戦推進課
		5 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業(H29～)(※繰越事業)	4,446	自然保護推進室
		6 国立公園施設整備事業(H29～)(※繰越事業)	12,153	自然保護推進室
7 みんなで支える森林づくり推進事業(H18～)		4,536	森との共生推進室	
8 県民の森管理事業費(H29～)		1,555	森との共生推進室	
9 おおいたの森林づくり広報推進事業(H18～)	2,020	森との共生推進室		
10 おおいたうつくし作戦推進事業(H28～)	5,504	うつくし作戦推進課		
			66,623	計
合計			284,571	

I-1 荒廃人工林緊急整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

3 森林組合、1 市町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林の木が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、長年間伐が実施されない「間伐放置林」や皆伐後に再造林されずにそのまま放置される「再造林放棄地」が発生し、森林の持つ公益的機能が低下している。

(2) 目的

河川沿いの流木発生の危険性が高い森林や、間伐放置林及び再造林放棄地等の荒廃人工林を対象に森林整備を行い、山地の崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

(3) 事業内容

①流木被害対策事業

河川沿いの流木発生の危険性の高い森林を対象とした更新伐・林内整備による自然植生の回復。針広混交林化。

②間伐放置林等緊急整備事業

災害の発生が懸念される間伐放置林等の強度間伐による針広混交林化等

③再造林放棄地緊急整備事業

災害の発生が懸念される再造林放棄地の植栽・下刈りによる自然植生の回復

3 成果

①流木被害対策事業

伐採率40%以上の更新伐と林内整備を行うことにより、自然植生の回復・針広混交林化が促進された。

〈更新伐〉

年度	H28	H29	H30	計
計画	25ha	25ha	25ha	75ha
実績	21ha	21ha	-	21ha

②間伐放置林等緊急整備事業

40%の間伐により、早期に自然植生の侵入により針広混交林化を促進し、表土の流出を抑えることで、公益的機能を高めることができた。

〈間伐〉

年度	H28	H29	H30	計
計画	15ha	15ha	15ha	45ha
実績	2.5ha	-	-	2.5ha

③再造林放棄地緊急整備事業

広葉樹の植栽及び下刈を行うことにより、災害に強い森林の造成を行った。

〈植栽〉

年度	H28	H29	H30	計
計画	2ha	2ha	2ha	6ha
実績	1.6ha	0.8ha	-	1.6ha

〈下刈〉

年度	H28	H29	H30	計
計画	28ha	16ha	9ha	33ha
実績	15ha	9.3ha	-	15ha

4 今後の課題と取組

間伐放置林や再造林放棄地を解消する取組に加え、流木対策については、河川沿いの森林整備と尾根・急傾斜地における帯状伐採を組み合わせた広葉樹林化の推進と、治山事業との連携した流域単位での流木対策を進めることで、災害に強い森林づくりをさらに推進する。

5 実施状況写真

①流木被害森林緊急整備事業



事業実施前



事業実施後

②間伐放置林等緊急整備事業



間伐実施前



間伐実施後

③再造林放棄地緊急整備事業



再造林放棄地



植付5年後

I-2 急傾斜地崩壊危険区域緊急伐採事業

【砂防課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

土砂災害警戒区域等の多くは山林であるが、近年の急激な過疎・高齢化、木材価格の低迷等により間伐等の手入れが行き届かず、土砂災害防止機能等の公益的機能が低下している。特に、人家裏など生活環境に近接する放置森林は、台風等の暴風や豪雨による倒木やがけ崩れが、住民の生命・財産に影響を及ぼす危険性が高い。

(2) 目的

土砂災害警戒区域等のうち急傾斜地崩壊危険区域に指定された箇所において、雑木等を伐採することにより、倒木被害やがけ崩れを未然に防止する。

(3) 事業内容

急傾斜地崩壊危険区域内で、倒木被害やがけ崩れを招く恐れがある雑木等の伐採、運搬、処分を行う。

3 成果

生活環境に近接する放置森林の雑木等の伐採により、台風等による倒木やがけ崩れによる住民への被害を未然に防止することができた。

平成29年度伐採箇所	豊後大野市平井1地区 ほか22地区
------------	-------------------

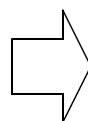
4 今後の課題と取組

今後も引き続き本事業を実施することにより、急傾斜地崩壊危険区域における倒木やがけ崩れの危険性の解消に努める。

5 実施状況写真



(伐採前)



(伐採後)

I-3 荒廃竹林整備・利活用推進事業

【森との共生推進質、林産振興室】

1 実施主体

市町村

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。また、放置竹林は周辺に面積を拡大し生活環境の悪化、生態系の単純化、土砂崩壊防止機能の低下などを招いている。

(2) 目的

① 県土の保全と良好な景観を確保するため、主要観光地周辺や幹線道路沿線及び集落周辺の鳥獣害対策が必要な箇所における荒廃竹林の伐竹整備、広葉樹林への転換等を推進する。

① 竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(3) 事業内容

① 広葉樹林化

荒廃竹林を広葉樹林に転換するために必要な伐竹整備、広葉樹植栽、再生竹除去等を実施。

② 大分空港道路竹林整備

大分空港道路沿線の荒廃竹林について、景観改善の目的で伐竹、広葉樹林の植栽を実施。

③ 優良竹林化

竹材、タケノコ生産として活用するため荒廃竹林の伐竹整備及び作業路の開設を実施。

3 成果

荒廃竹林を整備することで、景観の改善が図られた。また、タケノコ・竹材生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

① 広葉樹林化 (ha)

市町村	伐竹整備	再生竹除去
竹田市	0.26	1.28
玖珠町	0	0.49
由布市	0.14	0
計	0.4	1.77

②大分空港道路竹林整備

(ha)

実施主体	伐竹整備	再生竹除去
国東市	0	0.14

③優良竹林化

	管理方法 (ha)		計	簡易作業路開設 (m)
	タケノコ生産	竹材生産		
別府市	0.10		0.10	
国東市		0.83	0.83	
臼杵市	7.48		7.48	700
豊後大野市	0.31	0.94	1.25	
竹田市		0.10	0.10	100
日田市	0.34		0.34	200
玖珠町	0.47		0.47	
九重町	0.61		0.61	
宇佐市	0.13	1.75	1.88	
計	9.44	3.62	13.06	1,000

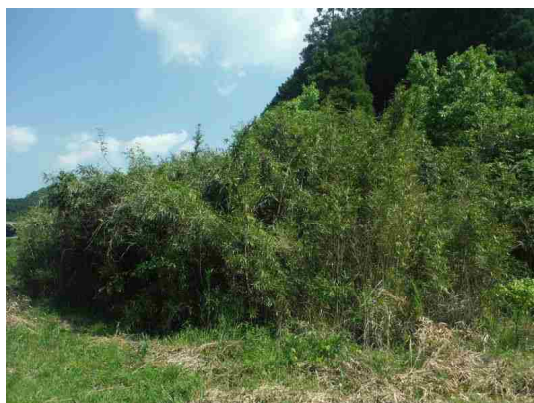
4 今後の課題と取組

これまでの取組に加え、引き続き、広葉樹林化へ転換、タケノコ・竹材生産への利活用を推進し、荒廃竹林の再生を推進する。

5 実施状況写真

①広葉樹林化

(伐竹整備、植栽)



【実施前】



【実施後】

(再生竹除去)



【実施前】



【実施後】

②優良竹林化



【実施前】



【実施後】



【簡易作業路の開設状況】

I-4 県営都市公園里山利活用推進事業

【公園・生活排水課】

1 実施主体

造園修景・環境カウンセラー協会大分共同体

（「一般財団法人 日本造園修景協会大分県支部」及び「特定非営利法人 大分環境カウンセラー協会」の2団体からなる共同体）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県営都市公園である大分スポーツ公園には豊かな里山が残されているが、県民に利活用されていない。

(2) 目的

県営都市公園の里山を活用し、県民参加の自然体験や環境学習等の機会を設け、県民に里山の再生の推進と自然環境保全への意識を醸成する。

(3) 事業内容

大分スポーツ公園の里山を開催場所として、きめ細やかな対応や自由な発想を持つNPO及び各種団体に企画・運営を委託して事業を実施する。

3 成果

年度	公園名	開催数	参加者数計（目標数）	申込者数計
H29	大分スポーツ公園	7回	405人（400人）	594人

参加人数の目標を達成するとともに、実施後のアンケート結果では自然とのふれあいや保全活動に積極的な意見・感想が多く寄せられており、参加者への満足度は非常に高かったことが分かった。

4 今後の課題と取組

参加者の層を広げて事業効果を高めるため、よりバリエーション豊かで魅力ある活動を実施する工夫が必要となる。

5 実施状況写真

自然観察会



きのこ（椎茸）の森づくり



木工クラフトづくり



I-5 魅力ある景観づくり推進事業(景観伐採事業)

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

中津市、佐伯市、津久見市、竹田市、豊後高田市、宇佐市、国東市、玖珠町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あり、視点場の整備がなされてきたところであるが、手入れをされず放置された樹木等により景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

(2) 目的

展望所等の視点場において、眺望を阻害している樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

(3) 事業内容

視点場からの眺望を阻害している樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	恋叶ロード（豊後高田市） 八面山（中津市）等 8市町15箇所	1/2 以内

3 成果

- ・展望所や観光ルート沿線の眺望が再生され、観光客の増加につながった。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の整備が行われる等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合等、協力を得られないケースがある。伐採箇所の成功事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

5 実施状況写真

〈豊後高田市 恋叶ロード〉



(実施前)



(実施後)

I - 6 森林シカ被害防止対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

ニホンジカによる農林業被害は県内で約 4,900 万円に上り、減少傾向にあるものの、依然として深刻な被害が懸念される。捕獲により生息頭数が減少している地域もあるが、未だに高密度地域も多いことから、稀少植物の食害等の生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる森林生態系被害が県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。このため、防護資材を設置し、林木への被害を防止する。また、シカの捕獲報償金事業により捕獲の強化を行い、シカの生息頭数を適正な頭数まで減少させ、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(3) 事業内容

種 類	事業量
防護資材の設置	2,650m
シカ捕獲報償金事業	32,244 頭

3 成果

防護資材等の設置により、林木およびクヌギ萌芽の被害防止が図られた。また、捕獲報償金によってシカの捕獲圧が強化され、森林被害対策を推進することができた。

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカの生息密度は適正密度より高い状況にあり、さらなる捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

(2) 取組

林木やしいたけ原木伐採後のクヌギ萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き防護柵の設置により被害を防止する。併せて、シカの生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に継続して取り組む。

5 実施状況写真



図-1 簡易ネットの設置例



図-2 餌に誘引されたシカ

I-7 生物多様性保全推進事業 (希少野生動植物の保全対策)

【自然保護推進室】

1 実施主体

大分昆虫同好会、大分県貝類談話会、おおいた環境保全フォーラム

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

希少野生動植物の保全・保護活動は、各地域のNPO等によりボランティアで行われているが、資金や人手不足のために必ずしも意図するとおりの活動ができず、行政に対する支援の要望が強い。

(2) 目的

希少野生動植物の保護措置を行う団体の活動を支援することにより、NPO・地域住民・行政が協働して行う保護活動が地域に根付き、継続・拡大していく。

(3) 事業内容

- ①ハッチョウトンボの保護活動（大分昆虫同好会）
- ②タケノコギセル・オオイタシロギセル保護活動（大分県貝類談話会）
- ③カワツルモの保護活動（おおいた環境保全フォーラム）

3 成果

①ハッチョウトンボの保護を図るため、発生状況・生殖活動の調査及び新たな分布調査を行った。

調査団体：大分県昆虫同好会

内 容：3カ所（大分農業文化公園、浄土寺（久木野尾）、秋山の公園池）にて12回、のべ60人が参加。

②タケノコギセル・オオイタシロギセルの保護を図るため、県内の生息可能地域を精査し新生息地発見とその保護を行った。また、生息地域で講演を通して採集圧抑制と保護啓発活動を行った。

活動団体：大分県貝類談話会

内 容：・豊後大野・木裏鉦山を中心とした調査を4日間開催、のべ20人が参加
・豊後大野市三重町内田と西泉の小中学校にて講演・観察会を行い、約20人が参加。

③カワツルモが生育する湖岸の適正な保全を目的として、湖岸に繁茂するダンチク等を除去し土砂流入による陸化を防ぐ活動を行った。

活動団体：おおいた環境保全フォーラム

内 容：・龍神池にて5回、池整備等の活動を行い、のべ13人が参加。

4 今後の課題と取組

事業実施団体をはじめ、関係団体等と連携しながら、希少野生動植物保護活動の拡大を図る。

5 実施状況写真

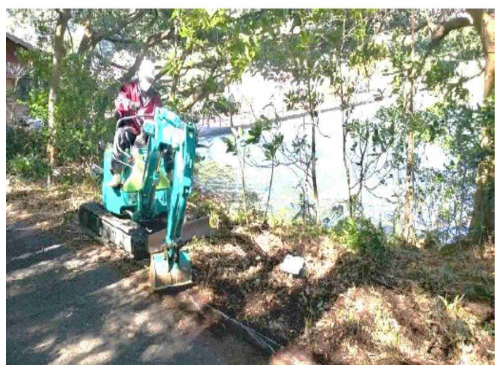
(1) ハッチョウトンボ
ヒメガマの除去



(2) タケノコギセル・オオイタシロギセル
講演会の様子



(3) カワツルモ
生息環境の整備



I-8 自然環境保全管理費 (祖母傾国定公園学術調査)

【自然保護推進室】

1 実施主体

大分県（委託先：大分県自然環境学術調査会）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

祖母傾国定公園は、急峻な岩峰や数々の溪谷など独特の景観美と原生的な自然を併せ持ち、希少動植物の宝庫として知られているが、1983年に実施した学術調査以降、その価値について十分に把握できていない。

(2) 目的

祖母傾国定公園内の優れた自然環境を調査し、公園内の学術的価値を把握するとともに、生物多様性の保全や適切な公園計画の推進、ユネスコエコパーク行動計画等の基礎資料作成に活用する。

(3) 事業内容

学術調査（調査項目：地形・地質、気候、水質、植生、フロラ、昆虫、魚類、両生類、鳥類、哺乳類）

3 成果

平成29年度は祖母傾国定公園のうち豊後大野市エリアについて、学術調査を実施し、地域の特徴的な自然環境の現況を複数の項目にわたって把握することができた。

4 今後の課題と取組

祖母傾国定公園のうち残るエリア（佐伯市及び竹田市エリア）について調査を継続し、公園全体の自然環境の現況を把握する。平成31年度末には、調査結果を公園計画やユネスコエコパーク行動計画等を見直すための基礎資料等として活用できるよう、保護が必要な地域やその保護対策等について提言をまとめる。

5 実施状況写真

魚類の調査



昆虫の調査



I-9 森と海をつなぐ環境保全推進事業 (流木等被害対策緊急防除事業)

【漁業管理課】

1 実施主体

大分県漁業協同組合

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

台風、豪雨等により河川沿いの森林などから流出し、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等は、漁業活動（操船、操業）の障害となることから、回収・処理作業が終了するまで、漁業者は出漁することができない。

流木等の漂着ごみの回収・処理は、施設管理者や海岸管理者が実施する責務を有するが、処理数量の把握、業者の選定などに多大な時間を要することから、迅速な対応が困難となっている。

(2) 目的

台風、豪雨等に伴い発生し、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等は、漁業活動の障害となるため、漁業者自ら、迅速な回収作業を推進することで、漁業被害の防止・軽減を図る。

(3) 事業内容

大分県漁業協同組合が実施した流木等の回収経費に対し支援

3 成果

漁港内等の流木等を迅速に回収することで、漁船や漁具等への被害が防止・軽減されるとともに操業機会が確保できた。

実施箇所：3海区のべ21漁港箇所

回収量：653 m³

4 今後の課題と取組

今後も本事業を実施することにより、漁業被害の防止・軽減に努める。

5 実施状況写真



I-10 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【循環社会推進課】

1 実施主体 地区自治会、NPO等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

海岸漂着流木等は、下流域住民の生活や経済活動の障害である。しかし、回収・切断や処理施設への搬送にかかる労働力と経費の負担が大きい。

(2) 目的

漂着流木等の処理に必要な費用を助成し、地区自治会やNPO等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

(3) 事業内容

団体名	実施日	場所	参加人数	処理量
NPO 法人水辺に遊ぶ会	平成 29 年 5 月 18 日～ 平成 30 年 2 月 25 日	大新田海岸、三百間海岸、東浜海岸(中津市)	940 人	約 25 m ³
天津地域づくり協議会	平成 29 年 6 月 1 日～ 平成 28 年 10 月 31 日	宮熊・布津部海岸(宇佐市)	270 人	約 30 m ³
地縁団体梶ヶ浜区	平成 29 年 7 月 19 日～ 平成 29 年 7 月 20 日	梶ヶ浜海岸(杵築市)	155 人	約 20 m ³
NPO 法人国東市手と手とまちづくりたい	平成 29 年 7 月 1 日～ 平成 29 年 8 月 31 日	国東市内海岸(国東市)	500 人	約 600kg 約 77m ³
臼杵さくら貝の会	平成 29 年 7 月 15 日～ 平成 30 年 3 月 11 日	洲崎海岸、黒島、上浦海岸(臼杵市)	200 人	約 200 m ³
大分県漁業組合臼杵地区	平成 29 年 7 月 17 日	佐志生～泊ヶ内の 18 地区(臼杵市)	480 人	約 54 m ³
杵築市まちピカ運動推進委員会	平成 28 年 10 月 21 日	守江港海岸(杵築市)	50 人	約 4 m ³
計 7 団体			2,595 人	

3 成果

身近な海岸を美しくするとともに、参加者の森と海に対する環境保全意識やゴミ問題に対する関心を醸成することができた。

4 今後の課題と取組

昨年度に比べて実施団体数が減少したため、事業のPRを強化し、実施団体・参加人数の増加を図る。

5 実施状況写真



I - 11 豊かな水環境保全推進事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

4つのモデル河川で水環境保全活動を行うNPO、自治会等
(※モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、河川の環境基準は達成しているが、施設データと県民の意識に乖離がある。また、豊かな水をはぐくむ森林の保全活動や河川や海の美化・清掃活動等が特定の住民や地域に限定され、広がりが不十分である。

(2) 目的

モデル河川の流域住民が主体となる流域会議で、それぞれの流域の課題に応じた水環境保全活動を展開し、豊かな水環境の創出を図る。

(3) 事業内容

- ・モデル河川毎での流域会議の開催
- ・山（森）・川・河川の保全活動を支援し、啓発するイベント「つながる！豊かな水キャンペーン」の実施
- ・各河川の取り組みを発表する「豊かな水環境フォーラム」の開催

3 成果

	流域会議開催回数	イベント名	参加者数
筑後川	2	日本童話祭	600
大分川	4	直入ふるさと振興祭 大分川水環境フォーラム	100 200
大野川		大野川水環境フェスタ	400
犬丸川	2	今津校区ふれあい祭	200
合計	8		1,500

4 今後の課題と取組

- ・4河川で実施されてきた流域会議の取組を地域で定着、発展させるため、より多くの地域住民を巻き込む積極的なPR活動が必要である。
- ・上流域の森づくりを通して、水質環境づくりにつなげる取り組みについて検討する。
- ・活動団体の高齢化が進んでおり、組織に活性化を図る必要がある。

5 実施状況写真



大分川水系宮川における外来水草



オオセキショウモの除去作業

再造林促進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

木材価格の長期的低迷や森林所有者の高齢化等により、皆伐後の再造林が実施されない箇所が発生している。再造林が実施されないと、災害の発生など森林の公益的機能が低下や将来の森林資源確保と木材の安定供給に支障をきたすことが懸念される。

(2) 目的

林業適地における低コスト再造林を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

(3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000 ～ 2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積は増加しており、再造林放棄地が減少している。また、平成 21 年度は県下全体でスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44 %であったが、平成 29 年度は 93 %を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

〈再造林促進事業の計画及び計画〉

年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
計画	650 ha	700 ha	930 ha	980 ha	1,010 ha
実績	663 ha	914 ha	— ha	— ha	— ha

4 今後の課題と取組

各市町村及び各森林組合を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



Ⅱ－２ 県産竹材利用促進事業

【工業振興課】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は全国一のマダケ竹材生産地で製竹・竹工芸・竹製品卸販売等の産業が集積している。「別府竹細工」は大分県で唯一、経済産業大臣指定の伝統的工芸品だが生活様式や景気動向の変化により竹工芸品の需要低迷と、竹材供給業者の担い手不足が重なり竹材生産出荷量は減少し、竹林荒廃が懸念されている。

(2) 目的

竹材利用の促進の取組みとして、竹工芸従事者の自立支援と技術の研鑽を図り、竹林資源の有効活用を促進する。

(3) 事業内容

竹工芸訓練センターの竹工芸支援用の貸工房「未来竹房B-スクエア」（平成21年度開設、3室）の入居者を対象に、竹製品の企画開発と展示会開催を支援し、竹材の新たな利用を探り、県産竹材並びに竹製品の需要開拓に繋げる。

3 成果

Bスクエア入居生による展示会「春と竹展」

会期：平成30年3月23日～25日、会場：県立美術館 1階アトリウム

出展数68点、来場者数361名、ワークショップ参加者数11名

4 今後の課題と取組

竹材生産業者の高齢化と担い手不足により、竹材調達が年々厳しくなり、一部の竹細工職人や作家自身が竹山の管理を行う動きもあるが、県や地域において竹林の管理と竹工芸用竹材の安定供給の仕組みづくりが課題となっている。

今後、新たな竹材利用の促進に向けて取り組みを継続する。市場が求める竹製品の開発を通して、竹材の有用性への理解や竹工芸等への関心を高め、県産竹材並びに竹製品の消費拡大を図る。

5 実施状況写真

29年度未来竹房B-スクエア入居者による竹の展示会「春と竹展」(H30.3.23-3.25)



県立美術館1階アトリウムでの展示会の様子。会場では入居者作品の他、竹工芸用の竹材や加工技術資料等も紹介



道具や竹材加工の流れ、入居者3名の竹材利用促進プランを紹介するパネル



開催初日にNHK大分から取材に対応する入居者の様子



会期中に美術館研修室で開催した竹細工ワークショップ。写真は竹玉アクセサリ作りを体験する来場者

Ⅱ－3 竹産業等振興対策事業

【林産振興室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は豊富な竹資源を有しているが、代替素材の開発等により竹材利用が減少しており、荒廃竹林が増加している。

(2) 目的

たけのこ生産や竹材管理に関する知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

(3) 事業内容

①たけのこ生産竹林楽校…研修生12名。研修3回実施。

内容は基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等。

②竹林楽校特別研修…竹工芸訓練センター訓練生12名。

伐採技術研修を①の第1回研修と同時開催。

3 成果

- ・たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換が可能となり、充実した研修を行うことができた。
- ・過去から今年度までの研修生の中で、「荒廃竹林整備・利活用推進事業」を利用する事例が増えている。

4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるなか、研修の幅広いPRをうことで竹林の持続的な管理に繋げていく。

5 実施状況写真



Ⅱ-4-① CLT利活用等促進事業 (大分県木造マイスター育成事業)

【林産振興室】

1 実施主体
大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

改正建築基準法の施行に伴い、3,000㎡を超える木造建築物などが耐火措置等を講じることによって建築しやすくなった。しかし、工法を選定するうえで大部分を担っている建築士等には木造設計の経験が少ない方も多く、非住宅建築物では非木造が大部分を占めている状況にある。

(2) 目的

非住宅建築物の木造化を推進する建築士等を育成し、地域材の活用による健全な森林の維持増進と、林業・木材産業の活性化を図る。

(3) 事業内容

県内の若手建築士に対し、林業や製材加工、木造建築に精通した講師による年6回の研修会を開催。

3 成果

以下の内容の研修を実施。全ての研修内容を修了した12名(H28年:16名)に対し「大分県木造マイスター」として修了証を交付。今後の木造建築推進が期待されている。

平成29年度
【大分県木造マイスター育成事業】講義内容及び日程

回数	内容	開催予定日 (※)	場 所 (※)	時間	講義内容	講師等
1回目	林業全般の 専門知識	5月30日 (火)	佐伯広域森林組合 他 (佐伯市)	9:00 ～ 17:00	現地研修 (丸太の生産から製材加工までの流れ)	39997/ハートアップ 有限会社 代表取締役 三浦 逸朗 佐伯広域森林組合 (林業全般、流通、製材加工)
2回目	法令関係	6月28日 (水)	大分県林業会館 (大分市古国府)	9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 16:00	木造建築に係る建築関連法規等の動向 近年の木造建築、木造に関わる建築構造設計の特長	大分県林産振興室 大分県建築住宅課 株式会社7/16/17 建築研究所 所長 三井所 清貴
3回目	大型木造建築物 の設計・施工	7月19日 (水)	大分県林業会館 (大分市古国府)	9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 16:00	断熱性能・省エネルギー(講義) 懸垂設計(講義)	山口県産業技術センター サブリーダー 水沼 信 有限会社 田園都市設計 代表取締役 大西 泰弘
4回目		8月28日 (月)	大分県林業会館 (大分市古国府)	9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 16:00	構造設計(講義) 防火設計(講義)	山辺構造設計事務所 所長 山辺 豊彦 桜設計集団一般建築士事務所 所長 安井 昇
5回目		10月12日 (木)	大分県林業会館 (大分市古国府)	9:00 ～ 16:00	構造設計(講義、実習)	株式会社 川崎構造設計 代表取締役 川崎 雄 39997/ハートアップ 有限会社 代表取締役 三浦 逸朗
6回目		10月13日 (金)	大分県林業会館 (大分市古国府)	9:00 ～ 16:00	構造設計(実習、提案) 修了証書交付	日本文理大学 工学部 建築学科 教授 井上 正文 39997/ハートアップ 有限会社 代表取締役 三浦 逸朗

4 今後の課題と取組

研修会の実施だけでなく、木造施設の設計提案競技会など実務に繋げていく。

5 実施状況写真



研修風景



研修風景(製材工場視察)

Ⅱ－４－② CLT等利活用促進事業 (土木用丸太活用促進事業)

【林産振興室】

1 実施主体

大分県森林組合連合会

(県内13森林組合を統括、指導する上部団体)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

住宅等を建設する場合に地盤改良が必要な場合がある。地盤改良の手段の選択肢の中に、木杭を地中に埋め込む方法(環境パイル工法)がある。鋼管を埋め込む工法に比べ、安価で環境にやさしい。この工法の普及は木材の需要拡大の一つの手段となると考えられるが、普及は未だ十分でない。大分県森林組合連合会は木杭を製造する団体である。

(2) 目的

工務店等関係者を招いた実演会及び研修会を開き、木杭を地中に埋め込む地盤改良(環境パイル工法)の普及を図る。

(3) 事業内容

実演会、研修会の開催 1回 工務店等から16名が参加

3 成果

実演会及び研修会の開催により木杭を地中に埋め込む地盤改良(環境パイル工法)の有効性をPRできた。

4 今後の課題と取組

この方法による地盤改良の実施が広まることで、木材の需要拡大が図られる。

5 実施状況写真



大分市佐野の住宅建築現場 実演会
木杭を地中に埋め込む工程を実演



工務店等関係者を招いた研修会

Ⅱ－５ おおいた型次世代木造住宅創造事業 (地域材パネル工法普及研修事業)

【林産振興室】

1 実施主体

大分県（大分物語協議会）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

人口の減少に伴い住宅着工需要の縮小が予測されると共に、大工の高齢化・減少が進む中、ツーバイフォー住宅のような簡易な住宅工法の需要が高まっている。

(2) 目的

県内の木材生産から住宅産業までの関連業界が垂直連携し、在来軸組工法とツーバイフォー工法のメリットを併せ持つ地域材パネル工法の製造・普及に取り組むことで、地域材の需要拡大を目指す。

(3) 事業内容

工務店や施主等に向けた地域材パネル住宅の普及啓発活動

3 成果

地域材パネル住宅の上棟の様子や完成後の見学会、また工法の解説を目的としたセミナーを開催し、地域材パネル住宅に関する理解と関心を高めることができた。

(開催回数) 見学会 2回（うち農林水産祭 1回）、セミナー 1回

(参加者数) 見学会 約 4万人(農林水産祭)、セミナー 28名

4 今後の課題と取組

引き続き普及啓発に取り組むことで、地域材パネル住宅建設実績の増加につなげていく。

5 実施状況写真



上棟見学会の様子



普及啓発セミナーの様子

Ⅱ－6 県立スポーツ施設建設事業

【屋内スポーツ施設建設推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・『公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律』の施行（H22.10.1）
- ・新たに整備する県立屋内スポーツ施設は、九州大会以上の大規模大会が開催可能な大規模施設であり、約 5,000 人の観客を収容予定。（80m × 41m の大空間を確保）
- ・大規模な木造建築物の実施事例が少ない。

(2) 目的

- ・むく材を使った屋根構造では日本最大規模となることから、県内外へ当施設を強くアピールし、本県を象徴する施設として整備する。
- ・多くの県産材を活用し、県産材の魅力を発信することで、木材需要の拡大に繋げる。

(3) 事業内容

森林環境税を活用し、県産スギ製材品の木造化に係る木材の調達経費の一部に充てるほか、広報活動などのソフト事業にも活用。

3 成果

（単位：m³）

	構造材	内装材	合計
多目的競技場	772	13	785
武道場	200	0	200
計	972	13	985

4 今後の課題と取組

県産材の魅力やすばらしさを県民のみならず他県民に対して発信していくためには、より多くの利用者や来場者が集う施設にしていく必要がある。

5 実施状況写真



【建設現場】



【竹細工ワークショップ】

Ⅱ－7 林業就業準備支援事業

【林務管理課】

1 実施主体

公益財団法人 森林ネットおおいた

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県では林業就業者の高齢化等により、林業担い手の不足が深刻となっており、新たな林業担い手の確保・育成が課題。

(2) 目的

森林・林業・木材に関する体系的な知識・技術を習得し、現場で中心的な役割を果たすとともに、将来的に林業経営をも担いうる人材を育成する。

(3) 事業内容

公益財団法人森林ネットおおいたが実施する1年間の研修事業「おおいた林業アカデミー」に必要な経費（備品等）に対して支援を行う。

3 成果

(1) 新規就業者の確保

平成29年度は9名の研修生が「おおいた林業アカデミー」に参加し、9名全員が卒業、森林組合や林業事業体に就職し、今後本県林業の中心的担い手としての活躍が期待される。

4 今後の課題と取組

現在、林業就業者の高齢化が進み、平成27年国勢調査によると、本県の林業就業者数は5年前に比べ123人減少している。このため、「おおいた林業アカデミー」が継続できるよう支援を行い、林業担い手の確保・育成に努める。

5 実施状況写真



H29.4 開講式



H29.6 森林調査
(森林測量)



H29.7 森林施業(下刈)

H28繰越事業 障がい者福祉施設整備事業

【障害福祉課】

1 実施主体

特定非営利活動法人 青い鳥

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題及び目的

障がい者の地域における多様な暮らしを支援するため、共同生活援助（グループホーム）など住まいの場の整備が課題である。

(2) 事業内容

施設整備を行う社会福祉法人等に対して経費の一部を補助することにより、障がい者に対する福祉サービスの充実を図る。

3 成果

グループホーム（定員10人）を豊後大野市内に整備することにより、地域におけるグループホームの充実を図ることができた。

また、地域材を使用したことにより、施設利用者が木を実際に見て触れることで、木の美しさを感じ、癒やしを得ることができる空間を提供できた。

（木材使用量 38 m³）

4 今後の課題と取組

施設の木材化・木質化の推進を図りながら、県内の共同生活援助（グループホーム）等の充実に取り組む。また、施設の木造化により、県産材需要拡大、森林資源の循環利用を積極的にPRする。

5 実施状況写真



Ⅲ－１ 森林づくりボランティア活動促進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進しており、森林ボランティア参加者数は年々増加している。

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

(2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

(3) 事業内容

①森林づくりボランティア支援センター事業

(ア) 大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた	
事業内容	1) ボランティア情報の収集・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・HPによる森林ボランティア情報発信 ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行）
	2) 森林ボランティア団体（新規5団体）、個人（新規30名）の登録
	3) ボランティア通い帳の発行（30冊）
	4) 森林ボランティア指導者のための安全講習会の開催（13名参加）
	5) 森林づくりに関する相談、情報提供
	6) 森林ボランティア団体協議会の活動支援（情報交換会、学習会開催）
	7) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・利用団体：11団体 ・利用者数：312人

ホームページの運営



「森林ボランティア通信」



「ボランティア通い帳」



森林ボランティア登録者に配布

「安全講習会」



登録された森林ボランティア団体の活動実績に応じて物品を配布



ツール数	交換できるグッズ
3枚	タオル
5枚	スポーツタオル
8枚	カマ・ノコ替え刃
12枚	ノコ・ヘルメット

(イ) 緑と森の総合実践講座

森林ボランティア団体の知識や技術の向上を図るため、森林ボランティア団体等を対象とした研修会を開催した。

	参加者数	内容
第1回	10名	里山の整備
第2回	13名	樹木の管理



②企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。
平成29年度までの協定数：32社

③森林づくり提案事業

県民からの提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

実施団体：45団体

※詳細は次頁「事業一覧表」を参照



伐竹作業（大分市）



大越地区棚田を守る会（佐伯市）

④山村多面的機能発揮対策事業

地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し助成する。 実施団体：14団体

3 成果

- 森林ボランティア団体等を対象とした新規講座等を開催し、森林づくりの知識や技術の向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では41団体を対象に支援を行った。
- 森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ13,320人が森林ボランティア活動に参加した。

<森林ボランティア団体数、参加者数の推移>

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率(%)
H18	31	583	9,361	8,500	110%
H19	34	1,000	9,511	8,700	109%
H20	41	1,233	9,734	8,900	109%
H21	46	1,318	12,567	9,200	137%
H22	51	1,912	12,608	9,500	133%
H23	53	2,056	12,497	10,200	123%
H24	60	2,213	12,612	10,900	116%
H25	62	2,329	12,832	11,600	111%
H26	63	2,444	12,902	12,300	105%
H27	89	2,612	13,083	13,000	101%
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%
H29	102	2,775	13,320	13,200	101%

4 今後の課題と取組

森林ボランティア参加者数については、目標は達成しているものの、近年高止まり傾向にあるため、大学生など若い世代の森林ボランティアの育成の推進する。また、森林ボランティア団体協議会と連携し、各種研修会を開催する等、森林ボランティア団体への活動支援を行う。

平成29年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	局	活動の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
1	大分北部	東部	両子の森プロジェクト下草刈り(両子山の自然林育成事業)	両子の森プロジェクト	国東市	ボランティアを募り、4年前の植樹地(常緑樹、落葉広葉樹)で下刈りやシカネット調整、自然学習会等を実施し、森について学びながら、地域活性化を図った。	91	100
2			杵築市大田地区の森林環境教育活動事業	有限会社 福田林業	杵築市	森林環境教育活動(ネイチャーゲーム、植樹体験等)を通じて、地域住民や地元小学生・保育園児等に、山林の役割について理解を深めて関心を持ってもらう活動を行った。	189	567
3			城下町地区の里山保全事業	城下町地区まちづくり協議会	杵築市	城下町地区の荒廃竹林において、地域住民等と協働し、伐竹作業、チップ化を実施することで、景観の美化と風情の創出を行った。	481	88
4			杵築市大田地区の森林環境教育活動事業	くにさき半島七郷ネイチャー	杵築市	地域住民や学生等に森林が持つ役割を教え、触れてもらい緑豊かな里山の保全を一緒にやる。	500	172
5			国東市内の里山環境保全事業	夢咲さくら会	国東市	旧国東町内から始めた桜の植樹活動は、一昨年植樹地を国東市内4町全域に広げ、市内の景観美化に努めてきた。今後、さらに荒廃していく里山林を地域住民と協働して保全すべく、植樹活動を通じた市民同士の交流により、森林・里山に愛着を持つ住民の育成に努めると同時に地域の活性化を図る。	470	136
6		北部	三郷みどりの少年団における森林体験学習	三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林環境体験学習や干潟体験学習を通じ、子ども達に山・川・海のつながりと森林の働きの重要性を理解させ、緑を愛する心を育成する。	115	26
7			森のめぐみの創設と河川愛護促進事業	宇佐市の森と海の共生を推進する会	宇佐市	子供達を対象に、植樹・椎茸打ち体験等を行い、森林の効用や河川や河川の役割等についての講習会、森・川・海の恵みの試食会等を実施。	392	116
8			中津・桜ともみじの里づくり事業	中津・桜ともみじの会実行委員会	中津市	中津市を日本有数の桜ともみじの名所として創造するため、山国川流域に落葉広葉樹を植栽する。	500	36
9			第20回「耶馬の森林」植樹の集い	「耶馬の森林」育成協議会	中津市	「耶馬の森林」植樹の集いを開催し、水を育む森林を守る大切さについて、耶馬溪ダム上下流域住民の相互理解と連携を深めるとともに、運命共同体意識を高める。	500	500
10			遊び学ぶもみじ村づくり	千部もみじ村	豊後高田市	地域の小学生を対象に、椎茸の駒うち体験や植樹活動を促すことによりこころ豊かな自動の育成の一役を担う。	257	357
11			中津市山国町守実地区及び耶馬溪町大島地区・樋山路地区の里山保全事業	下毛の里自伐型林業研究会	中津市	広葉樹林が荒廃し、里山保全上の課題となっている。そのため、広葉樹林の整備と針葉樹林伐採跡地に広葉樹を植栽する。	399	140
12	大分中部	中部	持続可能なうーたチャレンジ10プロジェクト	うーたの会	大分市	都市の中に位置する里山林の整備を継続して実施。また、子供自然体験活動の拡充を図るため、森林・自然観察、体験、自然素材を使用したものづくり等の豊富なメニューを実施。	490	342
13			かくれた山里の景観保全と名木の山里づくりと体験学習会	河原内つじ会	大分市	学校や保育所と連携し、子供達に豊かな森林体験が実施できるよう森林づくり・環境教室を実施する。	229	439
14			(一社)大分県造園建設業協会 里山保全事業	一般社団法人 大分県造園建設業協会	大分市	竹林再生事業跡地で地元住民・日本文理大学生ボランティア等と里山保全活動を実施する。また、小学生を対象に森林環境学習会を開催する。	199.18	127
15			津久見地区里山保全事業	津久見地区山づくり協議会	津久見市	中田地区の荒廃した里山で竹や雑木の伐採を行い、地域住民とともに緑化木の植栽、保育を行うことにより森林環境の改善を図る。	242.17	44
16			森林づくり活動及び森林環境教育活動	つくみ環境美化グループ	津久見市	津久見市中心部の宮山公園などで広葉樹植栽を行い、森林公園として整備する。また、市内小学生を対象とした森の教室や椎茸打ち体験等を実施し、森林づくりの意識醸成を図る。	49.371	177
17			森林環境教育の充実及び大南地域の森林整備事業	特定非営利活動法人 碧い海の会	大分市	竹中地区の「憩いの広場」を中心に森林づくり活動に取り組む。また、子どもたちへ竹工作教室や自然観察教室等の環境学習を実施。	500	615
18			ふるさとの風景を昭和初期の時代に再生する	豊後ふるさと再生塾「昭和の里かぐや姫」	大分市	荒廃竹林・雑木林の整備、未利用資源の有効活用(炭化)を通じ、「ふるさとの景観を昭和初期の姿に」復元させ、自然を体験できる交流の場として整備する。	81.2	26
19			白杵市海辺地区の里山保全事業	三角台を守る会	白杵市	地域住民と協働して三角台の森林・景観の整備や登山道の整備を実施し地区住民の森林意識の醸成を図る。	377	250
20			上野の森の保全と活用計画検討事業	おおい上野の森の会	大分市	上野の森に関心のある個人や団体を集めて「保全と活用の計画」について検討する会議を開く過程で、森林整備の必要性の認識してもらう。	131	121
21			津久見市の春は四浦半島から	四浦を考える会	津久見市	河津桜の植栽や下刈を実施し、豊かな森を育て海を再生する。開花時期が早く、開花期間が長い河津桜の植栽により、「津久見市の春は四浦半島から」と言われるよう取り組む。	32.4	40
22			山桜日本一の里山づくり	永慶寺山登83戸組合	由布市	「山桜日本一の里山づくり」を目指し、ボランティア等による植栽地の下刈り、登山道の整備やヤマザクラの植栽等を実施。	285	57
23			ヤブトラ物語	奥江の森を元気にする会 森林部会	由布市	由布市湯布院の奥江地区において、除伐・植樹・森林教室等の活動を行い、自然と人間が共生し豊かになっていく方法を模索する。	500	90

平成29年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	局	活動の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
24	大分中部	豊肥	里山保全親子森林教室	NPO法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	森林体験教室(竹箸づくり、自然観察、花炭づくり等)を通じて、子ども達に、森林の重要性を認識してもらう。	147	91
25			森林環境教育活動	あかい屋根の郷	豊後大野市	小学生を対象に椎茸栽培や駒打ち体験、炭焼き体験等を行い、地域住民と美しい里山づくりを進め、一般社会に対してその気運を高める活動を行う。	489	200
26			森林づくり事業	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市 朝地町	神角寺溪谷上流部の杉伐採後の荒地にモミジ・ヤマボウシの植栽を行う。	228	132
27			循環型エネルギー推進による里山再生事業	大分エコクラブ	由布市	大分市上野の森、由布市小狭間地区において、子どもたちを対象に森林環境教育を実施し、豊後大野市犬飼の山間部で里山保全活動を実施	178	100
28			森の文化継承事業	森の文化を伝える会	豊後大野市三重町	豊後大野市三重町内田の尺間山の登山道整備を通じて地域の住民や子どもたちに里山の良さを知ってもらう。	260	20
29			森林ふれあいバスツアー	全国乾しいたけ振興大会実行委員会	豊後大野市	椎茸料理教室やバイオマス発電所の見学を通じて子供たちに森林のもつ魅力と価値を再確認してもらう。	194	85
30	大分西部	西部	200海里の森づくり	一般財団法人 中津江村地球財団	日田市	筑後川上流の森づくりを下流域住民と共に、水源地域の森林の大切さを周知し、森林整備に対する意識の高揚を図る。	500	334
31			市民参加の森づくり	日田市	日田市	森づくりをとおして森林の有する公益的機能を守り育てる気運を高めるとともに、上下流域住民の交流・親睦を深める。	61	540
32			千年の森林づくり	ふるさとキャラバン隊	玖珠町	H3年台風19号被害を機に、森林の重要性について都市部や筑後川下流域関係者に理解を求め、下刈作業など復興の協力をお願いすると共に都市農山村の交流を図る。	320	81
33			荒廃竹林の整備及び竹の有効利用	千年あかり実行委員会	日田市	管理不足の竹林の伐採・片付けを支援し健全な里山を保全する。また、伐採した竹で灯籠を製作し、日田市千年あかりで有効利用する。	500	208
34			森を知ろう、体験しよう、森を作ろう	NPO法人 生活環境テラス	日田市	子供達を対象とした森林環境学習や森林体験、大人を対象とした森林体験(植樹と山歩き)を実施。	303	38
35			子どもの森林体験学習活動	豊後自然塾	日田市	自然体験の少ない子供達を対象に、森林体験活動や森林環境保全学習を実施する。	500	258
36			子供の炭焼き等森林体験活動	九重宝夢工房	九重町	地域の子供達に炭焼きや椎茸駒打ち体験を通じて、里山の大切さを知ってもらうとともに、荒廃する里山の整備につなげる。	120	60
37			日田木青会の森林授業・木工体験	日田木材協同組合青壮年会	日田市	子供や保護者を対象に、木育授業及び木工体験を行い、森林・林業に対する意識の向上を図る。	258	115
38			ひかりと風の森水源地域森林体感交流	柿ノ谷森林づくり実行委員会	日田市	筑後川中津江村最上流水源涵養林を環境学習の場として開放し、下流域までの多くの小学生に水を守ることは森を守ることだと体感を通して認識してもらう。	392	55
39			大山ダムの森整備事業	NPO法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	子供の森林教育・自然教育の場としてモデル的な水源林～景観林を整備し、下流域と交流しながら協働で生物多様性の高い森づくりを行う。	425	56
40			森林づくりによる生物多様性の保全活動	九重ふるさと自然学校	九重町	希少チョウ類や哺乳類など多くの生きものの生息地となっている里山環境に近い雑木林の拡大をめざした森林づくりを通じて、生きものの生息環境を保全し、九重の生物多様性の向上や環境学習の場としての活用を図る。	187	45
41	大山ダムの森整備事業	大山ダム水源地上下流事業実行委員会	日田市	福岡都市圏の水瓶である上流域と下流域の市民、関係団体と一堂に会し交流を行うことにより、水源林を守り育てることの必要性について相互理解を深める。	500	156		
42	大分南部	南部	森林ボランティア活動	佐伯広域森林組合	佐伯市	公募や自主参加による森林ボランティア活動(コンテナ苗植栽)を実施。	399	137
43			大越地区里山保全事業	大越地区棚田を守る協議会	佐伯市	里山の遊歩道の整備及び広葉樹植栽を行うことにより、里山の景観を改善し、大越地区の豊かな自然に触れ親しむ環境を整備する。	272	25
44			長松山森林整備事業	長松山森林整備推進協議会	佐伯市	荒廃が進んだ長松山の森林整備を実施し、森林環境の保全を図り、地域住民の憩いの場を創出する。	500	35
45			循環する「佐伯の森林」づくり推進事業	NPO法人 やまのり会	佐伯市	地区住民や子供達を対象に森林環境学習、森林体験(伐竹、下刈、椎茸駒打ち)等を実施。	500	192
合計(45団体)							14,243	7,529

Ⅲ－２－① 森林環境教育・木育促進事業 (森の先生派遣事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

子どもたちが身近に森林や自然に触れる機会が減少している。

(2) 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

(3) 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

3 成果

森林体験活動等を通じ、子どもたちの森林環境に対する理解と関心が高まった。

<実績の推移>

	H 2 7	H 2 8	H 2 9
派遣回数	9 8 回	9 2 回	1 0 2 回
派遣人数	4 3 1 人	4 5 0 人	4 8 5 人
体験児童数	4 1 6 4 人	4, 1 2 6 人	4, 6 7 9 人

4 今後の課題と取組

森林環境教育や自然体験に対する関心が高まり、学校等からの申込みが年々増えているため、派遣回数を増やし、森林体験活動の機会の増加を目指す。

5 実施状況写真



Ⅲ－２－② 森林環境教育・木育促進事業 (名樹とのふれあい事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県指定の特別保護樹木63本のうち、経年変化や気象害等により、樹勢の悪化や倒伏の恐れが生じている個体がある。

(2) 目的

県指定の特別保護樹木のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

(3) 事業内容

- ・不健全な樹木の保全・・・整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防・・・進入防止柵設置など

3 成果

4本の特別保護樹木（大分市カゴノキ、別府市イチョウ、国東市ケヤキ、イチイガシ）の治療を実施した。剪定、生育環境を改善する等の治療ができたため、今後樹勢の回復が期待できる。

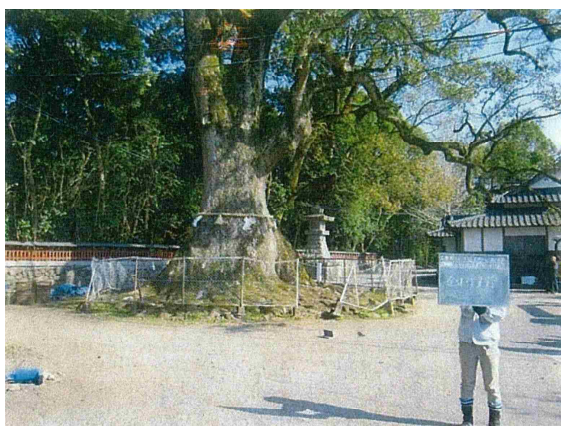
4 今後の課題と取組

特別保護樹木は樹齢が100年以上と古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図りたい。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

5 実施状況写真

クスノキ（中津市）



作業前



作業後（剪定・除伐・土壌改良）

Ⅲ－２－③ 森林環境教育・木育促進事業 (次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

(2) 目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図るための研修会を実施する。

(3) 事業内容

世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

(参加者) みどりの少年団29名、ボーイスカウト3名、ガールスカウト3名
(計35名)

(行程等) 平成29年8月16日～18日(2泊3日)

1日目：志戸子ガジュマル園、屋久島環境文化村センター、学習会

2日目：ヤクスギランド、安房川でカヌー体験、感想文書き

3日目：かごしま環境未来館

3 成果

①世界的、国内的に有数の森林環境保全地域を体験することにより、広い視点で森林環境に関する理解や知識が深まったほか、郷土のみどりを守る意識が高まった。

②研修会、発表会、報告会等を通じ、より一層「次代の森林づくり活動リーダー」としての資質向上が図られ、今後の活躍が期待できる。

4 今後の課題と取組

意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、研修内容をさらに拡充させ、屋久島での研修会を実施していきたい。

5 実施状況写真



屋久島環境文化村センター



ガジュマル園

Ⅲ－２－④ 森林環境教育・木育促進事業 (企業参画の木育活動推進事業)

【林産振興室課】

1 実施主体

九州電力大分支社、大分銀行、タマホーム大分支店、日本ハウジング

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

身近に木に触れる機会と場所が減少し、木を使う意義についての認識が薄れてきた現在において、木に触れ、人と木や森との関わりを考える豊かな心を育むために、木育の促進が必要とされている。木育の促進には、日常生活の中で木に触れる機会の増大が課題となっている。

(2) 目的

多くの県民が訪れる民間企業の店舗等に、県産材の木製品等を導入することで、木に触れられる機会を増やし、森林環境の醸成を図る。

(3) 事業内容

施設内で使用する県産材の木製品の導入を補助

3 成果

県内4施設に県産材の木製品を導入したことにより、大人から子どもまでが気軽に木に触れられる機会を増設できた。また、県産材の良さを知ってもらうきっかけになった。

4 今後の課題と取組

H30年度も事業を継続し、木に触れる機会の増大を図る。

5 実施状況写真



導入した木製品



県産材 PR 看板と導入した木製品

Ⅲ－3 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は優れた自然景観や多様な野生動植物など豊かな自然環境に恵まれているが、その豊かな自然環境を守っていこうとする意識は必ずしも高いとは言えない。また、子どもだけでなく、その保護者の自然体験活動や環境教育の経験を補いたい。

(2) 目的

森林環境学習指導者を活用して、環境に関する学習機会の提供や指導者を派遣することにより、自然体験活動や環境学習・活動の促進を図る。

(3) 事業内容

- ①「このえ緑の楽校」の実施
- ②「このえ緑の子ども園」の実施
- ③「このえ緑の探検隊」の実施
- ④「森林（もり）の環境学習サポート隊」の派遣
- ⑤「森林環境学習指導者スキルアップセミナー」の実施
- ⑥「森林環境学習指導者」活動実態調査
- ⑦「緑の環境学習指導者」養成研修会

3 成果

- ・「このえ緑の子ども園」について 回数…3回 参加者数…77名
森林環境学習指導者の組織化が図られ、効果的な活動を展開できたことにより、参加者の満足度は90%以上を上回ることができた。
- ・「このえ緑の探検隊」について 回数…3回、参加者数…43名
参加者の自然に対する興味・関心や愛着の高まりと「生きる力」の向上が見られた。
(I K R 評定調査の結果、「生きる力」の変容に6.3ポイントプラスの変容が見られたことから、「生きる力」の向上に有意差があったと判断できる。)
※I K R 評定：独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した活動の成果を測定するアンケート調査
- ・「森林（もり）の環境学習サポート隊」の派遣について 派遣者数…30名
参加者の自然環境に対する興味・関心や環境保全への意識の高まりにつながった。
- ・「緑の環境学習指導者」養成研修会 回数…2回、参加者数…60名
森林教育に関心のある参加者から新たな気づきや今後の展開に意欲をもって進みたいとする意見が多々あった。

4 今後の課題と取組

森林環境学習指導者の体験的参加型森林環境学習プログラムの実践における企画・運営力を向上をさせることにより事業の更なる充実を図り、森林環境学習指導者が大分県の環境教育推進に寄与する存在であることを県内に広報していく必要がある。

5 実施状況写真



このえ緑の探検隊



緑の子ども園

Ⅲ－４ 未来の環境を守る人づくり事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動な社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的なものが十分には実施されていない。

他方、青少年団体等で環境教育に取り組む団体もあるが、単発的なものが多く、体系的な活動を実施したくても資金面で困難な団体も多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちに環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育成し、環境関連の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

① おおいたこども探検団事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など実体験を伴う年間を通じた環境学習を行う事業を団体に委託して県が実施する。

② 大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

3 成果

① おおいたこども探検団事業

	H 2 8	H 2 9
採択団体	1 1	1 3
受講者数	1, 2 3 3	約 2, 0 0 0

② 大分県環境教育アドバイザー派遣事業

	H 2 8	H 2 9
派遣実績	1 5 5	1 6 2
受講者数	7, 3 5 8	8, 0 9 8

4 今後の課題と取組

おおいたこども探検団については、自然体験活動を行える県の公共施設を斡旋したり、希望する団体には県環境教育アドバイザーの助言を受けることができることとし、事業への応募団体の多様化と団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、派遣先や環境分野に偏りが出ているため、環境教育アドバイザーによる企画講座を行い様々な世代への環境教育を進めていく。

5 実施状況写真



①おおいたこども探検団事業
(岡原花咲かそう会 (樹木医との森林散策))



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業
(森林学習)

Ⅲ-7 みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念としているが、森林環境税の認知度はまだ低く、税の理念や使途が県民に浸透しているとはいえない状況である。

(2) 目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

(3) 事業内容

①第17回豊かな国の森づくり大会の開催

県民総参加の森林づくりを推進するために、豊かな国の森づくり大会を開催した。

- ・開催日時：11月18日（土） 10：30～12：00
- ・開催場所：萩尾公園・萩尾市有林（日田市友田）
- ・大会テーマ：「育てよう 未来へつなぐ 日田の森」
- ・主催：大分県、日田市、(公財)森林ネットおおいた
- ・大会規模：参加者数600人（みどりの少年団、大学生、森林ボランティアほか）
- ・森林づくり活動：植樹 1,600本（ヤマザクラ、ケヤキほか）

保育活動 H19年豊かな国の森づくり大会植栽木の手入れ

式典会場



植樹



②新たな森林づくり推進体制整備事業

- ・「森林づくり委員会」の開催

森林環境税を活用した事業の適正な運営のため、森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	6月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度森林環境税活用事業の実績 ・平成29年度森林環境税活用事業の予算概要 ・新たな育林技術等研究開発事業の審査
第2回	10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度森林環境税事業の予算概要について ・森林環境税新規事業提案について ・「次世代の森林づくりビジョン」について
第3回	12月11日	<p>現地視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人等の団体による海岸の環境保全活動（NPO法人水辺に遊ぶ会） ・早生樹の研究成果（おおいた早生樹研究会）

- ・「森林づくり流域協議会」の開催

地域における森林環境税事業の適正な運営のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPO等が行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内 容	開催回数
大分中部・大分南部 大分西部・大分北部 (4流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業)の 審査、実績の検証 ・森林環境税事業地の視察、意見交換 等	計8回

- ・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催

ビジョンを継続的に活用するために設置した「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の外部委員から提言や助言を受け、次世代の大分森林づくりビジョンの改訂を行った。

内 容	開催回数
・次世代の大分森林づくりビジョン素案の作成 ・次世代の大分森林づくりビジョン原案の作成 ・次世代の大分森林づくりビジョン【H29改訂版】の作成	3回

3 成果

(1) 豊かな国の森づくり大会の開催

多くの県民に森づくり活動を体験してもらうことで、森の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

(2) 新たな森林づくり推進体制整備事業

第三者機関である「大分県森林づくり委員会」で、森林環境税活用事業の成果検証、新規事業の内容及びビジョン改訂内容について意見を聴取し、県民の意見を取り入れることで、森林環境税を適正に運用することができた。

4 今後の課題と取組

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、森づくり大会の内容などを工夫し、引き続き県民総参加の森林づくりを推進する。また、森林づくり委員会等を利用し、県民の意見を取り入れ、森林環境税の適正な運営管理を行う。次世代の大分森林づくりビジョン推進会議では、資源循環利用の推進や持続的な林業経営を可能とするための取組について、引き続き検証等を行う。

(番号1) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	早生樹バイオマス+αの森林づくりパイロット事業	
事業主体名	おおいた早生樹研究会	
責任者(職、氏名)	(会長)(株)田島山業 代表 田島 信太郎	
研究期間	平成27年度～平成29年度 3ヶ年	
研究開発費	339,759円(森林環境税 338,000円、自己資金等 1,759円)	
研究目的	国内外の早生樹の造林・利用に関する情報収集と調査研究、県民への情報提供と普及啓発を行うことにより、早生樹を活用した次世代の大分森林づくりに先駆的に取り組む。	
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大分県における早生樹の適合性を検証するため試験地を造成し、密度試験、活着状況や成長量調査を行う。 2. 上記試験地の維持管理に必要な施業(下刈り等)を行う。 3. 造成シミュレーションを行いコストの優位性を検証するとともに、現地研修会を開催し普及を図る。 4. 早生樹の取組について、情報収集を行う。 	
研究成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早生樹試験地の保育 <ul style="list-style-type: none"> ・保育箇所: 日田市前津江、中津江、中津市耶馬溪 ・作業内容: 下刈り、成長調査 <p>・目 的 多種共存の森を目指し国産早生樹の活着調査</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 指導者との打合せ <ul style="list-style-type: none"> ・実施場所: 熊本市 ・検証内容: 情報収集等 <p>・目 的 早生樹に関する情報収集のためシンポジウムに参加し研究者等から早生樹の保育等について情報収集した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 研究成果とりまとめ 3年間の研究成果、活動成果をとりまとめてパンフレットを作成し、関係団体に配布して普及を図った。 	 <p>中津市耶馬溪町調査状況</p>  <p>早生樹関係シンポジウム</p>  <p>早生樹活用促進パンフレット</p>
普及性	保育経費が安く、資本回収が早い早生樹を活用した多種共存の森林づくりを推進することで、森林の多面的機能、森林所有者の持続的経営への支援、経営意欲の向上等が期待できる。	
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 更新・保育の施業体系の確立 2. 国産早生樹の認知度を上げ、利用・販路の拡大 	

Ⅲ－8 県民の森管理事業費

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分県県民の森は、大分市（旧野津原町）から豊後大野市（旧朝地町）にかけて設置された県の施設・森林です。平成4年の全体オープン以来、キャンプ場やサイクリングセンター等の施設のほか、ラベンダー祭やクラフト教室、森林を活用したウォーキングイベントを開催するなど、多くの方に森林に親しんでいただいています。

一方で、主要アクセス路である国道442号線に設置された案内標識が小さい等、県民の皆様から改善の要望があがっている状況です。

(2) 目的

主要アクセス路である国道442号線の道路案内標識に「県民の森」等の記載を追加し、県民の利便性を向上させる。

(3) 事業内容

主要アクセス路である国道442号線の道路案内標識及び観光案内標識6箇所「県民の森」等の記載を追加した。



3 成果

利用者が迷わず県民の森にたどり着くことができた。

4 今後の課題と取組

引き続き、県民の森へのアクセスポイントに案内表示板等を設置し、より多くの県民の皆さまに施設を活用していただくよう改善していく。

Ⅲ-9 おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県政モニターアンケート調査の結果、県民の森林環境税に対する認知度はこれまでの広報活動の成果等により、上昇傾向となっている。しかしながら、この税の目的の一つである「森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成」という面では未だ十分とはいえない状況である。

(2) 目的

森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

(3) 事業内容

① マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告3回（森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ Facebookページによる情報発信（豊かな国の森林づくりFacebook）

② その他の広報活動

- ・ 森林環境税パンフレットを作成し、イベント等で配布（7,500枚）
- ・ もりりんストラップをイベントで子どもたちと製作（約800個）
- ・ 森林環境税事業の実績報告書を、市町村等へ配布、HPで公開した。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、森林環境税に関するPRを行った。（もりりん貸出し回数：28回）
- ・ 「農林水産祭」や「森づくり大会」において森林環境税に関するコーナーを設置し、森林環境税のPRを行った。

3 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

4 今後の課題と取組

森林環境税の導入や用途について知らない県民もいることから、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行うほか、イベント等にキャラクターを派遣し、PRを実施する。

5 実施状況写真

農林水産祭に参加



森林環境税コーナー



森林環境税PR用チラシ



Facebookページ



もりりんストラップ製作



Ⅲ－１０ おおいたうつくし作戦推進事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

大分県(おおいたうつくし推進隊に委託
(委託先:NPO法人、学校、ボランティア団体 など)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成 28 年 4 月から本格スタートした「おおいたうつくし作戦」を県民に広く普及の取組をしているところだが、まだ十分ではなく、一層の普及・広報の取組が必要である。

(2) 目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来へ継承するため、地域活性化型の「おおいたうつくし作戦」を展開し、うつくしの「し(森林)」の分野を始め、様々な環境分野での県民意識の更なる醸成と持続可能な活動基盤づくりを推進する。

(3) 事業内容

①保健所・保健部ごとに地域連絡会の開催

うつくし推進隊等の環境保全団体と行政等で地域の環境課題等を協議する。

②おおいたうつくし作戦まちづくり推進事業の実施

①で集約した地域課題の解決に向けて、推進隊等と協働した事業を実施する。

③おおいたうつくし作戦なかまづくり推進事業の実施

提案公募型の委託事業を実施し、新規設立の推進隊の基盤づくりを推進する。

④おおいたうつくし感謝祭の開催

大分の豊かな自然環境に感謝し、環境保全の大切さを考えるきっかけとするための環境イベント「うつくし感謝祭」を開催する。

3 成果

	指標	H 2 8	H 2 9
①地域連絡会	参加団体数	4 8	7 2
②まちづくり推進事業	委託団体数	1 0	6
③なかまづくり推進事業	委託団体数	6	7
④うつくし感謝祭	参加者数	7 0 0	1, 0 0 0

4 今後の課題と取組

今後さらに地域の環境課題の解決を図り、平成 3 0 年度の国民文化祭や全国障害者芸術・文化祭来訪者に向けて、「環境視点でのおもてなし」を県民総参加でさらに取り組むため、各地域におけるうつくし推進隊の増加、活動の基盤づくりなどを引き続き推進する。

5 実施状況写真



うつくし作戦まちづくり推進事業
(杉バッジや復興状況のPRブース出展)



おおいたうつくし感謝祭
(檜ブロック積み上げ体験)